

# 川柳は5 7 5の自画像

—若菜はるおが全てを変えた(その2)—

文化世相作家 佐々木晃彦

若菜はるおの画と編集により、私の文字原稿は様変わりをしました。まさに二次的創作です。挿絵は文章の理解を助け、視覚的に捕捉しながら楽しめるよう工夫された作品です。それは文章と一体化して機能し、文字原稿に寄り添います。児童書や絵本では、挿絵が子供たちの力を発達させることに寄与します(国際情報学研究所)。私たちは日常的に、二次的創作、三次的創作と隣り合わせにあります。

前回拙文から変わった点を記します。「寄席にあって最後の色物」(高田文夫)と言わせしめた天才のローカル岡が、肝硬変で亡くなりました(2006年1月、享年62歳)。それ以降、私は漫才から漫談に切り替えました。九州では本務に加え、久留米大学(芸術経営学、文化産業論)、九州産業大学(文化経済学)に出講、東京で「文化経済学」をテーマにしたトロンボーン漫談に衣替えです。大学では学生が「講義要綱」を読んだ上で受講科目を決めます。が、九州産業大学の教務担当教授から「学生の将来を考えて講義を離れ、ご自身の社会体験を話して欲しい」の依頼。(「文化経済学」の講義概要・計画、評価方法を学生に公開済なのに、今さら何を求めているの・・・?)。さて、漫談家デビュー当日、ステージに上がる直前、サザンクロスの生田目章彦から「私が伴奏を加えましょう」の申し出(写真下左)。リハーサルなしでチョット心配でしたが、これは嬉しかったですねえ。



## 川柳は5・7・5の自画像

その2

文化世相作家 佐々木晃彦

はじめに

65歳定年で仕事場から退場勧告を受けた私は、大好きなトロンボーンを手に「音さがし」の世界に入り、そして今は「言葉さがし」に取り組んでいる。その舞台に前者はビッグバンド、後者は川柳を選んだ。川柳を選んだ理由だが、前々から土曜日の新聞で目にする「時事川柳欄」に惹かれていた。なお、本文紙面の構成上、前月号に掲載の川柳、数句が含まれていること、ご了承ください。

## ① 句に映る読者の世相感

## 1 読者の声

土曜の朝は、緩やかなウィーク・デーでも5日間の縛りから身を解かれる、一週間のなかで一息を入れたくなる時間だ。私が読んでいる新聞の「土曜朝刊人気コーナーベスト7」を〈読者の声〉とともに読むと、「記事に載った本を買いたい」(30代男性)、「読んだことのない本でも色々な人の感想を読むと世界が広がる」(60代女性)との〈声〉もあつて書面(26.8%)が1位、続いて2位が「井戸会議のようで面白い」(80歳以上男性)と特報面(19.2%)、そして、社説・発言面(13.6%)、暮らし面(10.8%)が続く、時事川柳(9.4%)は5位となっている。「社会情勢が分かり易い」(60代男性)、「何時も読んで笑っている」(80歳以上女性)、「読者と新聞を繋ぐ窓のようなもの」(60代男性)、「機転を利かせた言葉を楽しんでいる」(70代男性)など推薦の声はさまざま。



さま。私が詠む際に気を付けている事柄が、川柳への期待を込めた読み手からビシビシ伝わってくる。「俳句を詠む時のヒントになっている」(70代男性)、「その時の問題を的確に川柳に出来る人は凄いと思う」(70代女性)(東京新聞、2024年9月1日)など伺うと、初心者の方が身を振り返り、読者が持つ意識の高さに多少の責任を感じて怖気づく。(創作で川柳への理解を深め、理解を深めることで創作意欲が一層高まる。よって百難突破だ)。

俳人・エッセイストの夏井いつきが、詠み手から折りおりの状況を聞いた後に、「そのことを詠めば良いのよ」、時には「何を言いたいのか?」そんなことを書いてある場合じゃないでしょ!」「出直してきなさい!」と強く注意を促していることにも納得する。

川柳の場合は「読者の声」にあるように、詠み込んだ状況説明がなくても読み手に即伝わる必要がある。それでも、後述するが、「この句はデータを示した方が親切だろうな」と思う句には、それなりの数値を示し、注意書きを付けて説明することもある。ところで、川柳に漫画を添えるとうなるだろう。

## 2 川柳+漫画

私は詠まれた川柳が映像化できること、これを大切にしてきた。その効果を予測していても、新聞の時事川柳で拙句が取り上げられ、横に迫力満点の漫画(実際の私は上記、若菜はるお画を参照)を見た時は「開いた口へ牡丹餅」の心境でした。どうあがいても、私の力量では人の表情やシチュエーションを5・7・5の17文字で伝えるのは難しい。絵があることで《うがち》《お

かしみ》《軽み》は一気に身体に入る。絵の効力は絶大である。ここでの〈言葉の川柳〉と〈絵の漫画〉の関係性とは別かも知れないが、音楽家、夏バテで 俺は冷麦 妻鰻(うなぎ)  
(東京新聞、2024年8月31日)



八木倫明氏の世界、〈言葉の作詞・訳詞〉と〈音の作・編曲〉の関りに想いは飛ぶ。

実は、川柳+漫画の表現手法には、前々から関心を寄せて来たが、それはさておき、言葉は今という時代を映し出す。三省堂国語辞典の編集委員を務める飯間浩明は「時代の変化とともに新しい言葉が生まれ、広く使われるようになる。言葉が変わらないと変化する世の中を表現できなくなる」と語る。街に言葉を探しに行き、辞書が取りこぼしている面白い言葉に出合ったら写真を撮り、スマートフォンに直ぐメモをし、改定時には厳選した数千語を追加する。

私は目的に適う微妙なニュアンスの違いが欲しくなり、「誰が読んでも分かって載ける言葉だろうか」と自問自答しながら辞典と真剣に向き合う。しかし、いくら真剣でも、ただ、それだけの行為に留まる。その上、辞典が市場に出回った時は、飯間が行っていることから周回遅れになっている。書棚には数十冊の辞典・辞書が並んでいるが、ずいぶんと年季の入ったものが多

い。殆どが一冊数千円するので、一度購入すれば何年も使用することになる。数十年遅れの辞典を捲りながら、詠んだ折りの状況に最も相応しいと思われる言葉をさがしている(このタイムギャップ、何かヤツテルことが可笑しいぞ)。

## 3 川柳+(注)

時事川柳の「命」は2か月と言われる。せっかく詠んでも2か月経てば「これは何がテーマなの?」、或いは「何故この句を詠んだの?」となる。川柳は陽射しのように、水音のように、瞬時に受け入れられるべきものだ。しかし、その時々の問題が次々と表出するから致し方ないが、周辺環境の移り変わりが余りに早い。労力を注ぐ割に、時事川柳の生命は60日、儼く短い。詠んだ本人が「これは何がテーマだった?」と頭を抱えることも頻繁にある(あゝ、人生は平坦にあらず)。解決策として『川柳ノート』をつくり、メモ書きで(注)表記を付けている。幾つかの例を、詠んだ年月と一緒に示す。

- サハラでは時流れても時刻なし(2023年2月(注1))
- 軽石に挑むこちらは重い意志(2023年12月(注2))
- マインバー俺はいらない牛じゃない(2023年9月(注3))
- 制服が厭と不服の新入生(2023年9月(注4))
- 寝る間なくノルマあります(2023年6月(注5))
- 元理事の 四度の逮捕は日本新(2023年11月(注6))
- ロジハラにエイハラモハラもうハラハラ(2024年4月(注7))
- 神宮の伐採計画木が木じゃない(2024年4月(注8))
- 諭吉から私のこころ栄一に(2024年5月(注9))
- 優勝の右腕になるサウスボー(2024年6月(注10))
- 生い先を知らずに泳ぐ出世魚(2024年6月(注11))
- (注1) 20代後半の青春をサハラ砂漠で過ごしたが、時計を持っていた人はいなかった。各家庭にも柱時計や置時計はなかった。ありきたりの時計なら、サハラ砂漠特有の細かな砂で直ぐ壊れるだろう。参照「砂と海と太陽と」サハラの挙式」(財)昭和経済研究所 Webマガジン、2024年6月号)
- (注2) 小笠原諸島の海底噴火で発生した軽石



が、伊豆諸島の式根島漁港（東京都新島村）に漂着した。大きいもので直径1センチ程度あり、新島村ではオイルフェンスを設置する。既に鹿児島、沖縄県の港でも確認され、海洋研究開発機構は黒潮に乗った軽石が、11月には関東地方沖合に到達すると予測している。

（注3）畜主は牛の出生と同時に10桁の個体識別番号を記すタグ、耳標を装着し、個体識別センター（家畜改良センター）に報告する義務がある。飼育施設所在地、飼育開始（終了）年月日、性別、異動記録を把握することで、①安全性確保（例BSE）、②産地偽装対策他に対応する。なお、政府が、現行保険証の廃止決定過程を記録しておらず、マイナ保険証は政治問題化している（2004年9月）。

（注4）高額な制服が問題になっている。制服（春・秋・冬）十冬用オーバー、夏服十体操服（+シューズ）・・・成長期にあつては同サイズでの3年間着用ができず、半年しか使用できない場合もある。ブレザーは高価で洗濯しにくく、直ぐサイズアウトになる。貧富の差対応から、制服の選択制やジャージに統一することへの検討が課題になっている。

（注5）共済契約での過大なノルマがもたらす①職員に依る自爆営業、②顧客への不適切契約の勧誘が問題になった。JA共済の保有契約高は、日本生命（53兆円）、JA共済（91兆円）、第一生命（88兆円）、住友生命（69兆円）、明治安田生命（66兆円）、と大手生保に匹敵する（JA共済連、農水省資料、2023年）。

（注6）東京五輪のスポンサー企業から賄賂を受け取ったとして、東京地検特捜部は受託収賄容疑で、大会組織委員会元理事の高橋治之被告（当時79歳）を4回逮捕した。贈賄側は、①紳士服大手AOKIホールディングス、②出版大手KADOKAWA、③広告会社大広、④広告大手ADKホールディングス、⑤大会マスコットのぬいぐるみを販売したサン・アロー。筆者の類想句・

類似句に「聖火消え不審火残る五輪村」「東京五輪裏が際立ちおもてなし」「パッハさんソナタは解せぬ要変調」

（注7）ハラハラ（＝harassment harassment）業務上適切な指導であるにも関わらず、ハラスメントと騒ぎ立てる行為。本人の被害者意識が強く、指導とハラスメントの区別が分かっていない。良かれと思って指導したのに逆恨みされ、コミュニケーション不全に陥る可能性が大きい。

（注8）明治神宮外苑の再開発を巡り、事業者（代表・三井不動産）が東京都の審議会に、伐採する樹木の本数削減を盛り込んだ環境影響評価（アセスメント）書変更届を提出しなかった。事業者は9月に樹木伐採を始める予定だったが、都は「既存樹木の保全検討結果が欲しい」と、伐採前に保全の具体策を示すよう求めた。

（注9）表面・福沢諭吉（1835-1901）、裏面・雉のD券（1984年発行）、及び、裏面・平等院鳳凰堂像のE券（2004年発行）から、表面・渋沢栄一（1840-1931）、裏面・東京駅丸の内駅舎のF券仕様になる。F券製造開始は2021年9月、発行は2024年7月。新札発行の目的は①偽造対策強化、②ユニバーサルデザイン向上。

（注10）シーズンによって異なるが、中日・大野雄大、小笠原慎之介、横浜・東克樹、ヤクルト・石川雅規、ロッテ・小島和哉、日本ハム・山崎福也、SB・和田毅、楽天・早川隆久、オリックス・宮城大弥など。

（注11）関東・関西圏など地域で名称が違う場合もあるが、例えば、①チンチン⇩カイズ⇩クロダイ、②モシヤコ⇩ワカシ⇩イナダ⇩ワラサ⇩ブリ、③セイゴ⇩フッコ⇩ズズギ、④シンコ⇩コハダ⇩コンゴウイワシ、⑤オボコ⇩イナ⇩ボラ⇩トド、⑥カキノタネ（メジ、ダルマ）⇩チュウボウ⇩マダロ、⑦ショッコ⇩シオゴ⇩アカハナ⇩カンパチ

## ②シルバー川柳考察

1 いつまでも恋心

さて、何事によらず適齢期がある。適齢期は何かをするのに最適な年齢で、必要となる能力が備わっている時期。一例を示せば、子供には幼稚園で、あるいは小学校で新しい学習を始めるのに適した時期、適齢期があるだろう。

日本では森林も少子高齢化の域にある。若齢の森林が少なく、収穫適齢期を迎えている森林が半数以上占めているからだ。これは、自国の森林資源を使わず、利用する木材の70%以上を輸入に頼ってきたことに依拠している。

転職適齢期という言葉は最近聞いた。私事で恐縮だが不肖私は、18歳で東京都大田区の町工場で旋盤工として働き、以来、縁あって拾われ、また拾われ・・・、広告プロダクション、水産界、精密機器業界、生活産業界、最後は大学と、遊牧民のように渡り歩いた。その節目を思い起こすと、転職するのに相応しい時期であるか否か、そのような思いに耽る悠長な状況にはなかった。

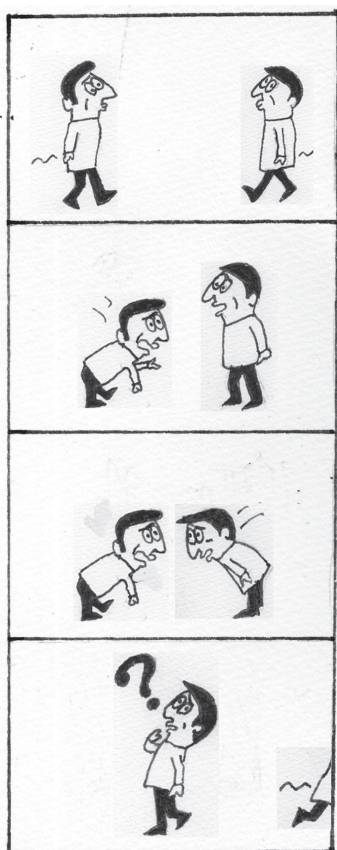
さて、最近足が上がらず、時々転びそうになる。これは紛れもなく転倒適齢期に入っている。食欲が無くなれば、食欲減退適齢期・・・か。65歳以上の高齢者は3625万人で総人口の29.3%、80歳以上になると1290万人で同10.4%おられる（総務省、2024年）。単身高齢者世帯873万世帯で、認知症高齢者の一人暮らしも多い（厚生労働省、2023年）。これを、お一人さま適齢期と呼ぼう。

これらの適齢期では①高血圧や糖尿病など持病の悪化、②視力や運動能力低下で段差に躓き、濡れた床や道で滑って転ぶ、③居場所が分からず迷子になり徘徊する、④食事が不規則になり生活習慣が崩れる、⑤薬の飲み忘れや飲み過ぎなど服薬管理が悪化

する、⑥金銭管理が出来なくなるなどが考えられる。

このような〇〇適齢期を肯定的に捉え、そこから今をどう生きるべきか見つめなおす。人生の後半にそっと、静かに、確実に訪れる心身の老化現象に気づき、〈誤作動する愛しい脳〉を優しく、なだめ執り成し、明るく笑い飛ばして楽しんで。過去に感謝し、現在に満足し、その結果として、未来に希望の息吹が与えられる。毎朝が人生のスタートライン、毎朝が誕生日。この瞬間、この一息に全力投球だ。ようこそ〇〇適齢期！

## 挨拶を交わしたあの人 誰だっけ？



- さまざまな門開け閉めし今がある
  - 手離せず積んどく書籍塵化粧
  - 出不精が自粛していると褒められる
  - よくこぼす俺は食べもの妻は愚痴
  - 敵になり味方にもなり共白髪
  - 時時の宝の山はゴミの山
  - いまゴミも昔の宝捨てられぬ
  - 下がるまで何度も計る血圧計
  - 長生きは厭と触れ込み医者通い
  - はしごする昔スナックいま病院
  - 腹七分残した三分に薬入れ
  - 最近の飲み代高い薬代
  - 名前出ず笑顔で誤魔化す町内会
  - 長続きしない本音を語る会
  - 挨拶を交わしたあの人誰だっけ？
- 表面的には加齢現象を嘆く振りをしながら、胸

を張り、今までの生き方を誇示する川柳。目指すは心意気の溢れる川柳。人生に最後が来るのは当たり前と認め、〇〇適齢期をへめげるな、自分よ！〜と言いつ聞かせ、恋心まで持ち続ける。そして、詠み手の言葉は、読み手の心を軽くする。

80歳に手が届く年齢になると、否応なしに耳に入る話題がある。埋葬方法で、様々な種類がある。①お墓を建てる、②納骨堂に納める、③

樹木葬、④合祀墓、⑤自宅で手元供養、⑥海に散骨などだ。最近の「お墓文化」は激変である。2020年からランキング1位は樹木葬（48%）、

2位が墓石型の一般墓（21.8%）と逆転した。樹木葬には区画が分かれていない合祀型やペットとの合葬タイプもある。ああ、愛しい加齢よ、未来は明るい。いつまでも川柳を創り続けるぞ！

〇お仏さん墓守去って放つとけさん

〇墓じまい増えてお墓の墓場増え

〇高齢化続けば俺は若いまま

〇先逝けば浮気するぞと威す俺

〇悩み消す度忘れオッケー老い楽し

〇ボケ結構早くあのことを忘れたい

〇日は長く人生は束の間

2 わたしを束ねないで

戦後を代表する女性詩人の新川和江が亡くなった（1929〜2024）。へ私を名付けないで、娘という名妻という名、重々しい母という名でしつらえた座に、座りきりにさせないでくださいわたしは風へりんごの木と、泉のありかを知っている風へこれは「わたしを束ねないで」の一節です。発表された1966年、新川は37歳だった。詩の自律性とあらゆる存在のより良い生の伸長を願う詩想が、作品世界に示されている。

川柳も低流する感情は一緒と思う。川柳の価値は、詠み人が自由に言葉を紡ぐことにある。自由であるから、川柳を自己治療、自己救済として詠むこともある。だから、

〇縁談を上手くまとめたお腹の子

〇結婚も胸のときめき挙式まで

〇留年に恩赦はないの？と泣く学生と詠んでも句会にはサンクチュアリ。

「あなたは出来婚なの？」「あなたの結婚生活は、そんな風になっているの？それとも皆がこのような状況にあると思うているの？」「学生に泣かれてどうしたの？結局、単位をあげたんですか？」などとは、お願いです、聞かないで下さい。

個人の自由や自立を制限し、本人の意志を無視して介入・干渉するバターナリズムはシラケます。とても難しいと自覚している駆け出しですが、私は川柳を詠んでいます。正しい言葉をさがし、【真】と【虚】を程よく絡ませた世界を創りたいのです。

お褒め戴きたく誰かに読んで貰うのではなく、自分に依る自分のための川柳です。私は食べ物でお腹を満たし、川柳で心を満たしたいのです。しかし残念なことに、日常生活は納得できることとばかりではなく、たくさんの首肯し難いこととも対峙しなければなりません。一例をあげれば私たちは、国の在り方を変える殺傷兵器の輸出解禁を、政府見解や与党協議だけで勝手に決める国に住んでいる。だから、怒り、憎しみ、悲しみと向き合い、時には「これって変だね」と思いながら、5・7・5の自画像を描いています。

〇習体制権威主義の集大成

〇木更津のオスブレイたち来て去らず

〇意味不明平和のためと武器を買う

〇国会で昼はグッスリ夜ピンピン

〇国会で野次はしません寝てるんで

〇物価伸び身が縮みます長寿国

〇寝ちゃいけない一泊5万するホテル

〇大寒波続く我が家の台所

〇海よりも深い愛より欲しい金

③ 言葉の光る道を求めて

1 言葉は人を繋ぐか

「音にまつわる通説がはびこる音声社会のな

か、ぼくは眼で聴いて生きています。聾の身体であることに躊躇いは一切ない。先天性観音性難聴で生まれた、写真家、エッセイストで、障害者プロレスラー陽ノ道としてリングにも上がる斎藤陽道（1983年、東京生）は語る。しかし、「聴力があることを前提とした無数の物語から、爪弾きにされる阻害感拭えない」とも。斎藤の妻も聾者である。それは事実だ。しかし、斎藤からすれば、それは妻のホンの僅かな一部に過ぎない。



言葉は人を繋ぐのか、それとも分離するのか。

斎藤は「言葉は人の存在を分離する」と言い切る。「男性」「女性」「聾者（聴覚障害者）」「聴者（健常者）」と言葉にする時、線引きが生まれ分類が始まる。斎藤が子供にまつわる文章を書く時は、子供の名前の後に、「コーダ：Children of Deaf Adults 聞こえない親を持つ聞こえる子供」と解説を入れなければならない。斎藤夫婦は聾者、子供たちはコーダであること、それは事実だ。しかし、このように分類することで、悲しみ、呻き、慈しみの想いが単純化されることへの躊躇いが拭えない。

私たちは無意識のうちに共感を求めている。人は肩書でなく、共感で集い、生きている。小説、映画、音楽・・・、川柳も共感できるか否かが評価軸となる。受け身で共感するだけではない。句会では「共感して欲しい」と寄りすがり、懇望する。それぞれ違う生きようを経てきた人々が句会で、「大共感時代」の空気を一緒に吸う？これって異様です。斎藤は「言葉は存在を分離する」と語ったが、安易な共感分断を生むと明弁する。

斎藤は聾者というマイノリティ属性を背負いながら、写真家、文筆家としてのマジョリティ属性も併せ持つ。その職業を通じた社会的経験が、斎藤を安易な共感に走らせない。「家族をひとまとめにする甘えを退け、どれほど近い間柄にあっても通じ合うことの出来ない異なりがあることをわきまめたい」と語る。それはアンタッチャブルな自律性。川柳句会も一緒である。孤独を持つ者同士として、そこから育み合い、生の伸長を願う人間の可能性に託す。斎藤陽道からは、新川和江と疎通する哲理を感じている。さて、終生初心者で得心している私は、類想句を幾つか創り、そこから選んで句会に提出することがある。敢えて数句並べたい。私は、相撲が大好きです（参照：縁は異なるものの味なもの）（財）昭和経済研究所、Webマガジン、2024年8月、P23）。そして今年の9月は、2014年9月の御嶽山噴火から丁度10年になります。先ず、戦後最大の火山災害犠牲者（死者5人、行方不明者5人）に、謹んで哀悼の意を表します。そして、相撲と御嶽山が交錯する御嶽海を詠むことから始めたい。

〇山が海？正体不明御嶽海

〇山なしは海なし県に変えましょう

〇大雪でSOSのレッカー車

〇大雪にはまったJAFもSOS

〇新幹線60年越え新幹線

〇50年前の開発ニュータウン

〇ウミを出せ！言ってる上司ウミの素

〇毒舌にとつても弱い毒舌家

〇強情な人も素直な人が好き

〇さからわず おだてにのらずしたがわず

〇噛みあえば味方噛みつけば敵方

〇愛飲家ビール値上げに泡を食う

〇財布には通りすがりのツーリスト

〇空き家増えているのに増えるプチメゾン

〇指揮者って客に尻向け棒を振る

2 詠んで楽しみ読んで笑う



「60年経って新幹線なら、この先も我々夫婦は新婚だ」と一笑した。ところで、数年前になるが、老後は年金にプラス300万円が必要という政府見解が流れていた。最近では500万円とも聞くが・・・しかし、これは、おかしい。住んでいる場所や当事者の生活習慣によって、老後に必要な資金は様々だ。それに、老後の生活はそれぞれの事情で個々人自らが考えている。

ところが、政府は「NISA（小額投資非課税制度）での運用を」と投資を働きかける。投資の本質はギャンブル。老後資金を競馬・競輪・競艇・オートレースなどの公営競技やパチンコ・パチスロに使うのと一緒に、自動的に儲かる投資などない。結局はゼロサムゲームとなる。小学校から投資に関する学習を取り入れ、中・高校では「こどもの投資教育・実践体験プロジェクト」がある。某放送局のTVニュースは最後に株価動向を示す。（多くの国民の関心は「株価より米価」ついでに現況から言えば「次の総裁よりお惣菜」と思いますよ。ゴメンナサイ）。小学生時代から、カネ・カネ・・・では東証の20代社員に依る上場企業のインサイダー取引疑惑や、最高裁から金融庁に出向中の30代の裁判官が矢張りインサイダー情報に基づいて株式を売買していた疑惑が出て不思議ではない。

私たちは、一人ひとりが自分の生きる世界を持つている。政府の役割は、高齢者が働きやすい環境を整え、支え合える社会保障の形を考えることなのに、これでは国民へのリスクベクトがまるで感じられない。老後の不安を煽って投資の活性化に導こうとする一方で、現在投資している約半数が損失を出していることには触れない。私たちはお金だけに生きる動物ではない。裏金をつくる手段も持ち合わせていない。

政府には、国民の一人ひとりがコッコツと築きあげて来た生活スタイルへの気遣いが欲しい。大企業優先の規制緩和に依る非正規雇用の増加、庶民に先ず課するのが自分で行う自己責任・・・

自己責任を強いる社会では誰も助けてくれない、誰も助けない。米国依存に垣間見るのも、国民をリスクベクトすることなく力任せで押し切る政治だ。「四海波静か」は遠い。（ちよつと飲みたくなった。少し飲んでから川柳を詠もう）

- 鍵かけた筈の心を開ける酒
- フグ料理オレがさげばしびれるぜ
- もうすぐに肉になるとは知らぬ豚
- 串刺され焼かれ揚げられ塩ふられ
- 夏の敵冬は味方の体脂肪
- 『がんばらない』本をがんばり読んじやった
- 尺取り虫お見事ペース崩れない
- 旅すれば何処も彼処も日本一
- 摩訶不思議ふれあい通りはヒトデナシ
- 散歩後は車で新聞買いに行く
- 帰路につき不意に浮かんだ捨てゼリフ
- 特売のチラシの裏に詠む川柳

### おわりに

パレスチナ自治区ガザの停戦交渉を、その進捗動向は不透明だ。ガザ保険当局に依れば、戦闘開始後のガザ側の死者は4万1千人を超えた（2024年9月10日現在）。これ程のが亡くなっているのに、私は川柳を詠むことに、うつつを抜かしている。遠い地域や目の前に在る幾つもの壁の前に、ぶつかり、弾き飛ばされ、自分を問い直し、発信している。足元を見詰め、一つひとつの言葉に命を吹き込んでいく。句会のメンバーは多士済々だから、自分以外、誰かの視点に立つて観る景色も大切だ。年を重ねても教わる事が多く、「心機一転」に遅いはない。70代を大学の講義の如く、前期・後期に分けて語る風情は非合理的で無茶。敢えて言うなら私たち世代は今、絶好の機会到来で『好機高齢者』とでも呼ぼう。こんな時に前を向いて共に歩き、分かち合える共見者がいれば、心強い支えになるだろう。ここに在るのは共に並び立つ共見の関係性である。たくさんさんの壁に揺れながら、今を生きている自分の問を共有し、課題と一緒に見つ

める共見者。川柳を詠むことの出来る日常は平和で幸せです。完璧を求めず、こだわらず、とられず、社会から少しだけ外れ、詠んで楽しみ、読んで笑う川柳。思い出すのが「笑点」のお題「18歳と81歳の違い」（2015年10月29日）。お題と回答をつくる作家と、演技力を発揮して面白おかしく答える笑点メンバーの絶妙な共同作業（参照：（財）昭和経済研究所、「縁は異なる味のもの」二代目桂小南からローカル岡の素材は枯渇しない）。

- 恋に溺れる18歳 風呂で溺れる81歳
- 心がもろい18歳 骨がもろい81歳
- 恋に落ちる18歳 ベッドから落ちる81歳
- 愛しているかを確かめる18歳
- 生きているかを確かめる81歳
- 聞かない18歳 聞こえない81歳
- 偏差値が気になる18歳

### 血糖値が気になる18歳

- 受験と戦う18歳 頻尿と戦う81歳
- 暴走する18歳 逆走する81歳
- 未来を話す18歳 過去を話す81歳
- 親の支えがいる18歳 杖の支えがいる81歳
- 何も知らない18歳 何も覚えていない81歳
- 旅で自分探しの18歳 徘徊で家族が探す81歳
- 頂点を目指す18歳 終点を目指す81歳

文中の行き過ぎた言葉遣い、どうか御容赦戴きたい。恋で胸を詰まらせブランド店をハシゴする18歳を前に、餅で喉を詰まらせ病院をハシゴする世代の一人です。これからも、静かに、のんびりと過ごして参ります。最も捨てたくない価値観を17文字に託しながら、ヨタヘ口街道を徐行して参ります。（文中の敬称略）

### 参考文献

麻生直子編『女性たちの現代詩』梧桐書院、新川和江『詩が生まれるとき』みずす書房、斎藤陽道『よつちばつちー家族四人の四つの人生』暮らしの手帖社、佐々木晃彦『豊かさの社会学

「変革の時代の生きがい求めて」丸善プロフィール

佐々木晃彦（ささき・あきひこ）山形県生まれ。九州共立大学名誉教授（文化経済学）。モントリオール商科大学院大学（カナダ、芸術経済学）、レンヌ第一大学大学院（フランス、日本の文化産業）特任招聘教授。「お笑い台本」の世界を経て2017年より市川一に師事、川柳創作に取り組む。作品は『川柳さわやか』No.401（読売多摩川柳クラブ、2018）、市川一編『川柳のあしあと』（川柳文庫、2022）、市川一編『日野本町川柳』（2017年7月号～2024年5月号）、『川柳かわせみ』（日野柳友会、2024年7月号）に収録。



初出：（財）昭和経済研究所